



まぼろしの大豆 「あけぼの大豆とは」



山梨県の南部に位置する身延町は、古くから続く豆類の栽培が盛んな町です。中でも「あけぼの大豆」は、この地域特有の気候と土壌が大きく起因しているため、身延町でしか生産できない大豆として、富士見山山麓の身延町曙・大須成地区を中心に明治時代から栽培され続けています。

身延町は山間地域の中でも日当たりや水はけが良く、霧も多く発生することから、乾燥に弱い大豆でも根張りが良くなり、栽培に適した環境です。また、その特徴は通常の大豆よりも2倍と大きく、昼と夜との寒暖差が大きいため糖度も約1割高く良質で美味しいこと。

特産物としての生産振興が身延町全域で図られ、県内外から非常に高い評価を受けています。生産地域に限られることで生産量も限られており、一般的に市場に出回らず入手が難しいことから「幻の大豆」と呼ばれる「あけぼの大豆」。さらにその枝豆は10月の収穫期の数日間のみ出回るものであるため、希少性の高い地域特産品となっています。